

京都市立病院 連携だより

vo.55
令和7年1月



- 最新型血管撮影装置の導入と
脳血管内手術のご紹介
- リハビリテーション科のご案内
- 地域連携室からのお知らせ

「春いまだ」

午後の暖かい光を浴びて走ります(福井県大野市)

撮影:糖尿病・代謝内科部長 小暮 彰典

京都市立病院機構理念

京都市立病院機構は

- 市民のいのちと健康を守ります
- 患者中心の最適な医療を提供します
- 地域と一体となって
健康長寿のまちづくりに貢献します

京都市立病院憲章

- 1 質の高い安全な医療を提供するとともに、地域の医療水準の向上に貢献します。
- 2 患者の権利と尊厳を尊重し、心のこもった医療を提供します。
- 3 救急や災害時における地域に必要な医療を提供するとともに、
地域住民の健康の維持・増進に貢献します。
- 4 病院運営に参画する事業者等とのパートナーシップを強め、健全な病院経営に努めます。
- 5 職員の育成に努め、職員が自信と誇りを持ち、
全力で医療に従事できる職場環境を作ります。



—最新型血管撮影装置の導入と 脳血管内手術のご紹介—



京都市立病院 脳神経外科 地藤純哉
でございます。

平素より当科の診療に多大なるご支
援を賜り誠にありがとうございます。

令和6年10月にドイツ シーメンス・
ヘルシニアーズ社製の最新鋭のバイ
プレーン血管撮影装置「ARTIS icono



D-Spin (アーティス アイコノ ディースピン)」が当院に
新たに導入され、令和6年11月中旬より本格的に稼働して
おります。

今回は装置とそれを使用した脳神経外科治療についてご
紹介させていただきます。

血管撮影装置は、血管内にカテーテルを導入し造影剤を



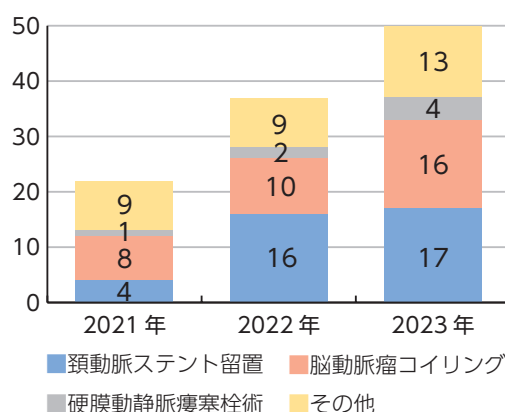
ARTIS icono D-Spin

目的血管に直接注入、様々な方向からX線を照射することで
血管の狭窄や動脈瘤、脳動静脈奇形や硬膜動静脈瘻などの
シャント性疾患を診断し、治療が必要な場合には血管内か
ら低侵襲の治療を行える装置です。

血管内治療は昨今、「切らなくてもできる治療」として患
者さんからのニーズも非常に高く、当院でもここ3年間、右
肩上がりに増加しております。2024年は血管撮影装置の改
修のため2ヶ月間以上実施ができませんでしたが、それでも
45件以上の症例を実施しております。

血管内治療は日々進歩しており、最新の専門的知識と高
い技術が必要とされます。当院では血管内治療専門医であ
り、専門医育成の指導医でもある辻敬一医師とともに新装
置を使用し積極的に治療に取り組んでおります。

血管内治療



より安全な撮影、治療への利点

<被曝低減>

血管撮影・血管内治療ではX線の被曝を伴いますが、最近で
は患者さんの被曝に対する関心も高まってきおり、人体への
影響からも被曝量は極力少なく抑える必要があります。今回
導入された「ARTIS icono D-Spin」では、カテーテルやガイド
ワイヤーを血管内で進めていく際に使用する血管ロードマッ
プ(撮影した血管像を透視画像に映り込ませ、より正確に器具
をデリバリーできる様にするための血管地図)は、以前に撮影
し記憶されたデータから自動的に作成できるため、必要時に
何度も撮影を繰り返す事なく作成できます。この従来からあ
る被曝低減のための機構に加え、血管内治療において使用さ
れる造影剤やガイドワイヤー、ステント、コイル、液体塞栓
物質などの様々な素材が持つ特性に応じたX線透視が行われる
新たな機能により、従来と同等の視認性を確保しながら透視・
撮影の線量を大幅に低減でき、より少ない被曝で、安全な検査、
治療を実現できます。

<視認性の向上>

「ARTIS icono D-Spin」では頭蓋内ステントなどの微細な
構造を鮮明に描出し、正確なデバイス留置がその場で確認で
きるように透視画像は従来装置の2倍の解像度(2K)を実現
しています。また3D撮影でも、装置を複雑な軌道で回転さ
せ撮影・再構成を行う新しい技術が搭載されており、骨など
に起因するアーチファクトを低減し、より高精細なイメージ
ングの撮影が可能になりました。超急性期脳梗塞における血
栓回収療法では、脳虚血のため撮影中に静止できない患者さ
んも多く、これまでは体動によるアーチファクトで視認性が
落ちることが多々ありました。従来よりもデータの読み出し
速度が速くなったことで同じ画質を得るための回転撮影をよ
り短時間で行えるようになり、体動によるアーチファクトの
問題を少なくすることができる様にもなっております。



脳外科医師・放射線技師コアスタッフ・担当看護師と装置の前で



治療方針を相談する辻医師と放射線技師

導入後治療を行った症例

導入後は、可及的早期に同機器をより適切かつ有効に運用できるよう放射線技師にもコアスタッフを設定し、そのメンバーと脳神経外科医師を中心に研修をつみ約1ヶ月で機器のかんりの機能を有効活用できるようになりました。

[40歳代女性]

てんかん発症で発見された左半球の硬膜動静脈瘻の患者]

血管撮影では左中硬膜動脈と後頭動脈の分枝が左横静脈洞ーS状静脈洞近傍硬膜でシャントを形成し脳皮質静脈へ逆流、巨大なvarixを形成。中硬膜動脈から塞栓物質(Onix)を注入しシャントを閉塞。これによりシャントは消失し拡大したvarixの描出も消失。術後は大きな合併症はなく、自宅退院に向けリハビリテーション継続目的で回復期病院へ転院。

(参照：図1～図4)

上記疾患は脳表への逆流も認めており、出血リスクの高い疾患でした。ただ治療難度は非常に高く、ARTIS icono D-Spinが使用できたことで、低被爆かつ安全に治療を完遂できた症例です。

その他、導入後には頸部頸動脈狭窄症に対するステント留置術、未破裂脳動脈瘤コイリング術、ステントを併用したより高難度の椎骨動脈瘤症例のコイル塞栓術を含め10

例以上の手術を導入後2ヶ月で既に行っております。また2025年からは動脈瘤の新治療である整流ステント(flow diverter stent)を用いた手術も当院で可能となります。

症例を重ねるごとに医師と放射線技師、看護師のスタッフ間の連携はさらに深まり、新機器の機能をより引き出せる状態となることで、これまで以上に安全かつ確実な、最新の血管内治療を実現できる状況ができあがってきております。

血管内治療の適応となる症例には、未破裂脳動脈瘤、硬膜動静脈瘻、脳動静脈奇形、頸部頸動脈狭窄、急性期脳塞栓(血栓回収)、脳腫瘍(摘出術前塞栓)などがあります。コイリング術やステント留置、塞栓術などに治療させていただきます。また、もやもや病や頭蓋内血管狭窄、閉塞等症例では脳血管撮影検査を行い、適切な治療へとつなぐ診断を実施いたします。

最新鋭の血管撮影装置が使用できるようになり、これまで以上に精進し地域の皆様にさらに貢献できるよう邁進してまいります。

先生方におかれましては、是非とも患者さんのご紹介を賜り、ご指導ご鞭撻をいただければ幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

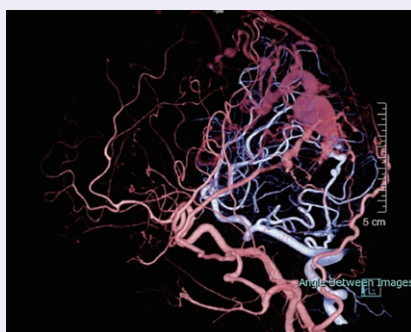


図1：ARTIS icono D-Spinによる3D撮影、総頸動脈造影〈赤〉と椎骨動脈造影〈青〉のfusion

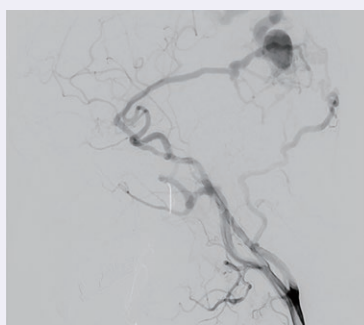


図2：術前、通常外頸動脈撮影
術後撮影では逆流により拡張した皮質静脈と巨大なvarixの早期描出が消失

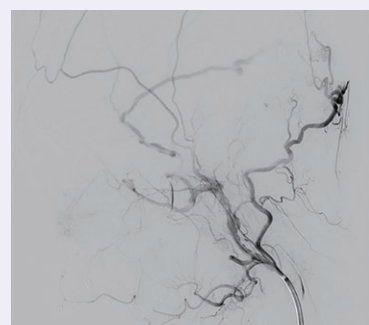


図3：塞栓術後、通常外頸動脈撮影
術後撮影では逆流により拡張した皮質静脈と巨大なvarixの早期描出が消失

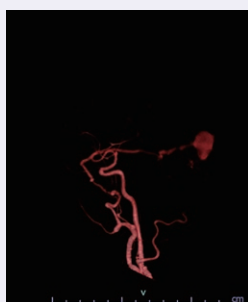
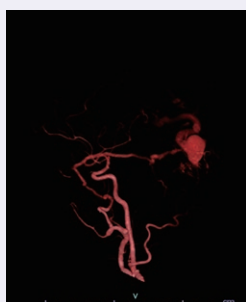
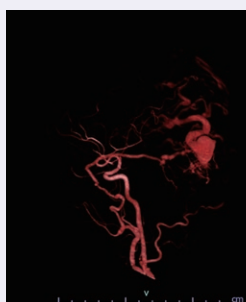
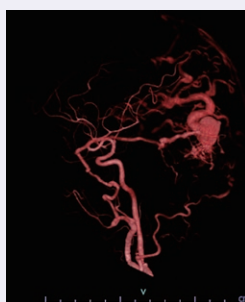


図4：ARTIS icono D-Spinの新機能：4D撮影(3D画像に時間軸の情報を追加)

リハビリテーション科のご紹介

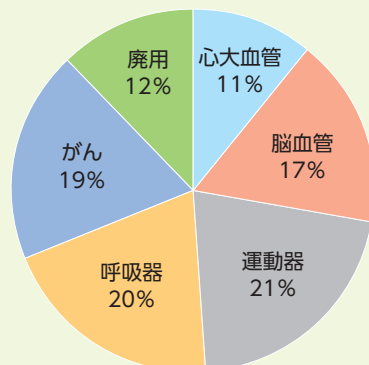
●リハビリテーション科について

リハビリテーション科には医師1名、理学療法士(PT)21名、作業療法士(OT)7名、言語聴覚士(ST)5名が在籍しています。入院患者さんを中心にリハビリテーションを実施しており、対象となる疾患は心筋梗塞や心不全などの心大血管疾患、脳卒中や神経筋疾患などの脳血管疾患、大腿骨頸部骨折などの運動器疾患、肺炎やCOPDなどの呼吸器疾患、がんなど様々です。

当院では急性期に特化した集中的なリハビリテーションを行っており、発症早期(手術前～手術後早期)からリハビリテーションを開始しています。また、退院前カンファレンスへの参加、リハビリテーション情報提供書の作成など地域連携を進めています。

2023年度のリハビリテーション科への依頼件数は3723件で、心大血管疾患408件(11%)、脳血管疾患643件(17%)、運動器疾患769件(21%)、呼吸器疾患745件(20%)、がん717件(19%)、廃用症候群440件(12%)、摂食機能療法1件(0%)でした。

2023 年度依頼件数



●早期リハビリテーションについて

当院では発症早期からのリハビリテーションを実施しております。入院後や手術後に速やかにリハビリテーションを開始することで、せん妄や肺炎などの合併症の予防、入院期間の短縮などが期待できます。

骨・関節疾患やがんの術前評価、ICUも含めた各病棟のカンファレンスや各種ラウンド等への参加で、医師や看護師らと連携を図り、リハビリテーションが必要な患者さんを見落とさず、早期よりリハビリテーションが実施できるように努めています。

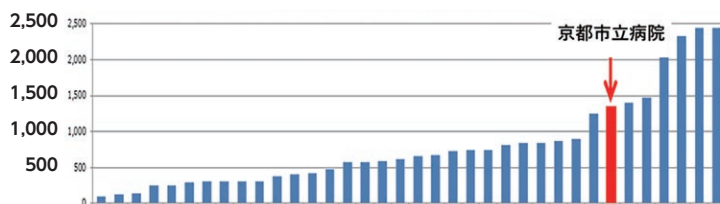
●がんリハビリテーション

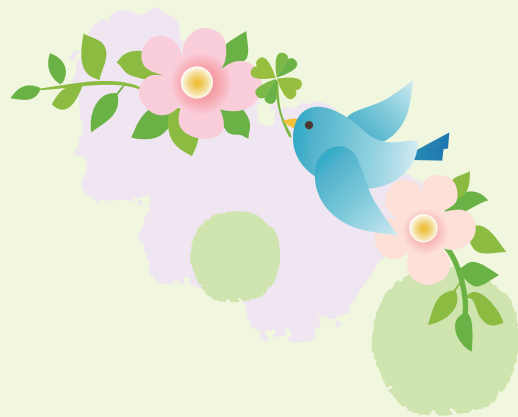
地域がん診療連携拠点病院として、がんリハビリテーションに力をいれています。

在籍するスタッフ33名全員が、がんリハビリテーション研修を受講しており、2023年度は717名のがん患者さんのリハビリテーションを行ないました。内訳は、血液内科166名(23.2%)、外科149名(20.8%)、乳腺外科100名(13.9%)、泌尿器科67名(9.3%)、その他(消化器内科、緩和ケア科、呼吸器内科、産婦人科、耳鼻いんこう科など)となっています。

手術を受ける患者さんには、手術前からリハビリテーションを開始し、筋力や体力の評価や手術後のリハビリテーションの流れの説明などを行なっています。また、手術だけではなく、化学療法や放射線治療を受ける患者さんに対してもリハビリテーションを実施しています。当院のがんリハビリテーション実施単位数は全国的にも上位をしめています。

がん拠点病院における「がん患者リハビリテーション」実施単位数(一月あたり)





●脳卒中リハビリテーション

急性発症した脳血管障害、脳腫瘍、パーキンソン病などの神経筋疾患、失語症・失認及び失行症などの高次脳機能障害、言語・嚥下障害など身体機能に障害を生じている患者さんに対し、発症早期よりリハビリテーションを開始しています。内容としては、基本的動作能力の回復などを目的とする理学療法、日常生活動作能力の回復などを目的とした作業療法、言語機能、摂食嚥下機能の回復などを目的とした言語聴覚療法で構成されています。2023年度は643名の患者さんのリハビリテーションを行い、日常生活動作の改善を図りました。脳卒中カンファレンスは週1回、病棟ラウンドは毎日実施し、医師を含めた多職種が参加し、日々情報を共有し更新することで、早期自宅退院を目指しています。



●運動器リハビリテーション

運動器とは、「動く」ことに関わる骨、筋肉、関節、神経などの総称です。運動器リハビリテーションでは、運動器疾患を持つ患者さんに対して運動療法や物理療法、装具療法などを用いて身体機能を可能な限り改善することを目的としています。当院整形外科は、人工関節外科センターと脊椎・脊髄外科センターを中心とした手術を実施しており、リハビリテーション科は、主に手術前より介入し、手術翌日よりリハビリテーションを開始しています。主な対象疾患は、変形性関節症・脊椎疾患術後・骨折等の患者さんに対し実施しています。2023年度は769名の患者さんにリハビリテーションを行い、受傷前の生活に戻れるよう自宅・職場復帰を目指して取り組んでいます。

●心臓リハビリテーション

当院は、京都心不全ネットワークに参加しています。心不全患者さんがご自身で健康管理を行えるように京都市内の他病院と連携して取り組んでいます。

2023年度は408名の心臓リハビリテーションを行ないました。心不全だけではなく、心筋梗塞や閉塞性動脈硬化症などの患者さんに対してもリハビリテーションを実施しています。6名のスタッフが、日本心臓リハビリテーション学会認定心臓リハビリテーション指導士の資格を取得しております。

また、当院では循環器内科医と連携して外来集団心臓リハビリテーションを行なっています。2023年度は23名の外来集団心臓リハビリテーションを行ないました。



地域連携室からのお知らせ

地域連携室のご紹介

こころのこもった温かい対応を目指して

平素より地域医療機関の皆様には、地域連携室の運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当院では、2023年4月1日から地域医療連携業務の委託を廃止し、病院職員が対応する体制に変更しております。

現在、地域医療機関からの予約・問合せ等に、5名の事務職員で対応しております。これに加え、看護師1名、事務職員3名がバックアップしています。

皆様からの電話にはしっかり対応することはもちろん、できるだけスムーズに予約を取得できるように努めております。

一方で、今年度から医師の働き方改革が始まり、当院といたしましては、地域医療支援病院並びに紹介受診重点医療機関として、外来は紹介患者さんを中心に予約制を進めております。確実に予約を取っていただけるよう努めて参りますので、予約の取得にご協力をよろしくお願いいたします。

なお、当日の緊急受診などは、『救急受診及び入院・転院相談専用電話 (075-311-6337)』にご連絡をいただければ幸いです。

まだまだ発展途上の地域連携室ではありますが、“こころのこもった温かい対応”を目指して参りますので、御指導御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



事前予約専用FAX

FAX 075-311-9862

事前予約医療機関専用電話

TEL 075-311-6348

紹介予約業務等 に係る受付日時	・月曜日 8:30 ~ 19:00	・火曜日 8:30 ~ 19:00	・水曜日 8:30 ~ 19:00
	・木曜日 8:30 ~ 17:00	・金曜日 8:30 ~ 19:00	・土日祝 休業

救急受診及び入院・転院相談専用電話

TEL 075-311-6337

受付日時	月曜日～金曜日 8:30 ~ 17:00
------	----------------------

京都市立病院登録医(かかりつけ医)制度について

登録医募集しています

当院では、地域医療の第一線を担うかかりつけ医の先生方との連携のもと、地域医療の一層の充実を図るため、「地域医療支援病院」としての役割をしっかりと果たして参りたいと考えております。

つきましては、「登録医(かかりつけ医)制度」の趣旨を御理解、御賛同いただけるようでしたら、申込書(様式1)に必要な事項を御記入のうえ、FAX(075-311-9862)または御郵送くださいますようお願い申し上げます。申込書は当院のホームページより「地域の医療機関の方」→「登録医制度」からダウンロードしていただけます。

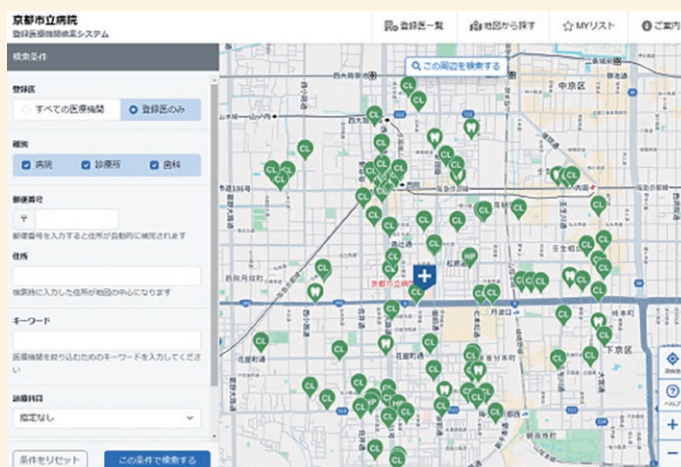
今後とも、地域の医療機関の皆さまと市立病院の連携、役割分担を進め、地域全体でより安心できる医療を提供し、市民の皆様の健康を支えて参りたいと考えておりますので、より一層の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

登録医申込書はこちらからダウンロードできます。→



【京都市立病院登録医（かかりつけ医）制度の概要】

- 当院の開放型病床及び高度医療機器等をご利用いただき、共同診療が可能です。
- 当院の図書室など、院内施設を御利用いただけます。
- 当院から患者様の御紹介（逆紹介）をさせていただきます。
- 当院主催の地域医療連携カンファレンス、地域医療フォーラム等の御案内をお送りします。
- 登録医（医療機関）名を院内で掲示し、当院のホームページにも掲載いたします。（右図参照）
（掲載内容：登録医医療機関名、登録医名、所在地、電話番号、標榜診療科）
- 当院のデジタルサイネージ広告等に申し込むことができます。
（有料。ただし、広告枠には限りがあります。）
- 登録医の資格は、申込書をいただいた日の翌月の1日からとさせていただきます。



詳細についてご質問がある方は、京都市立病院患者支援センター地域連携室（TEL:075-311-5311）までご連絡いただけますと幸いです。

みぶ病診連携カンファレンス

当院では、月に1回第4木曜日に紹介患者様の症例検討等を通じて、病診連携を深め、地域医療の発展に寄与することを目的として、カンファレンスを開催しています。

今年度より一部の診療科でWebを使用してのハイブリッド開催を行っております。ご紹介いただいた患者様の症例検討など、リクエストも受けておりますので、お気軽にご参加をお願いします。開催予定はホームページに掲載しているほか、登録医の先生方にメールでお知らせしております。メール配信を希望される方は登録医のお申し込みをお願いいたします。

登録医の先生方でメールアドレスを登録されていない方もこの機会にぜひご登録ください。



令和6年度みぶ病診連携カンファレンス

第11回（令和7年2月27日）耳鼻いんこう科
第12回（令和7年3月27日）歯科口腔外科

場所：京都市立病院 北館7階ホール2

紹介患者さん診療・検査事前予約ご利用のご案内

医療機関用 外来診療・検査事前予約 FAX予約

待ち時間を短く患者さんが円滑に診療・検査を受けられるように、病院及び診療所の先生から『事前予約』をお受けしております。

●予約方法

①「紹介患者さん事前予約申込FAX用紙」に必要事項を記入し、地域連携室までFAXで送信してください。

②直ちに、予約をお取りし、「予約受付票」をFAXで送信します。ただし、受付時間外のFAXについては、翌営業日の朝にご連絡いたします。

③患者さんに以下をお渡しください。

- ・予約受付票
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・フィルム等

④ご来院時、患者さんには以下をお持ちいただきます。

■先生から受取ったもの

- ・予約受付票
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・フィルム等

■別に必要なもの

- ・マイナ保険証又は健康保険証
- ・お薬手帳又はお薬のわかるもの
- ・診察券



予約受付先

●京都市立病院地域連携室

TEL (075)311-5311(代) (内線2113)

FAX (075)311-9862(専用)

●事前予約医療機関専用電話

(075)311-6348

事前予約受付時間(土日祝日を除く)

平 日/8:30~19:00(木曜日は17:00まで)

FAXは、24時間お受けしています。

地域連携相談業務

平 日/8:30~17:00(月曜日~金曜日)

患者さん用 紹介患者さん事前予約センター 電話予約

先生からの紹介状があれば、患者さんからのお電話で、ご自身のスケジュールに合わせた予約をお取りいただくことができます。(※担当医師の指定、検査の予約はできません)

●予約方法

①お電話をされる前に、患者さんには以下をお手元にご用意いただきます。

- ・事前予約申込票(必要事項記入済みのもの)
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・診察券 ※初診でもご予約可能です。

②患者さんから『事前予約センター』へお電話いただきます。

専用電話番号 (075)311-6361



受付時間/月~金(9:00~17:00)

※土・日・祝・年末年始(12/29~1/3)を除く

●ご予約は前日17:00まで受付しております。

▶電話予約時に確認させていただく内容

- ・患者さんのお名前(漢字・ヨミガナ)
- ・生年月日・性別
- ・ご連絡先(電話番号等)
- ・紹介元医療機関名・予約診療科

③ご来院時、患者さんには以下をお持ちいただきます。

■先生から受け取ったもの

- ・事前予約受付票(必要事項記入済みのもの)
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・フィルム等

■別に必要なもの

- ・マイナ保険証又は健康保険証
- ・お薬手帳又はお薬のわかるもの
- ・診察券

健康診断や人間ドック、各種検診で「要精密検査」となった場合でも、上記と同様の手続きで事前予約が可能です(初診でも予約可)。ぜひご利用ください。

※ただし、市立病院で人間ドックを受けられた場合は、健診センターでの予約となります。

専用の申込用紙は、京都市立病院のホームページからダウンロードが可能ですので、ぜひご利用ください。



京都市立病院
LINE公式アカウント
開設しました！

お友だち追加はこちらから！

二次元バーコードからお友だち追加

右の二次元バーコードを読み取り追加してください。

ID検索からお友だち追加

LINEアプリの「友だち追加」→「友だち検索」

→「ID/電話番号」より右のIDを入力し追加してください。▶ID: @433bwxxjh



当院のイベントに関する最新情報を月2~3回配信しています！



地方独立行政法人 京都市立病院機構

京都市立病院
地域連携室

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1-2

TEL 075-311-5311(内線2113) FAX 075-311-9862

事前予約医療機関専用電話(地域連携室直通) 075-311-6348

https://www.kch-org.jp/